

資料編

人間・社会的側面研究に関する国内外の研究動向 レビュー結果

人間・社会的側面研究に関する国内外の研究動向について、レビューを行った結果を以下に示す。

1. 国外の研究動向

1.1 HDPワークプラン1994 - 1995

a. 概要

ISSCは、地球環境変動に及ぼす人間活動の影響、及び地球環境変動による人間社会への影響を解明することを目的としたHDPを、1990年に発足させた。ISSCはUNESCO (United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization : 国連教育科学文化機関) 総会の決議に基づき1952年に設立された国際的学術団体であり、HDPはISSCの実施する科学プログラムの一つとして位置づけられている。

HDPの目的は、地球環境変動における人間の役割及び社会変動との関連を理解するための研究の促進である。そのため、自然科学者と社会科学者の協力の助成、互換性のあるデータセットの開発、共通手法の作成、研究成果の交換メカニズムの提供などを行っている。

具体的な活動方針として、現在は「ワークプラン1994 - 1995」が提案されている。以下にその主要点を示す。なお、1996年3月頃までに、改訂版（ワークプラン1996 - 1997）が作成される予定である。

b. 研究テーマの定義

HDPの研究の枠組みにおいて対象とする研究テーマは、以下のような分野横断的課題に対応するものとされている。

- (1) 地球変動の人間活動による推進力 (Human driving force) は何か？
- (2) 社会的プロセスがどのように地球変動の物理的プロセスに結びつくか？
- (3) 物理的地球変動プロセスがどのように人間システムに影響するか？また、さまざまな社会的・政治的・経済的形態による影響の受けやすさにどのような差があるか？
- (4) 適応策のポテンシャルはどの程度か？また、異なるシステムを持つ個々の社会が、どのような影響緩和戦略を策定・採用することができるか？

c. クライテリア

国際的な研究プログラムとして、HDPは研究テーマの優先性に関するクライテリアを以下のように定めている。

- (1) 物理的環境プロセスと明確な関連を有すること、即ちIGBP、WCRP、STARTなど他の国際研究計画とリンクすること。
- (2) グローバルな視点からのデータや、国単位での能力を超えた学際的な協力を必要とするプロセスを重視したものであること。
- (3) 人類の生存や福祉に影響し、かつ一国のみの見方では知識のレベルが不足する問題であること。
- (4) 実地的な研究努力により、概ね次の10年で結果が得られるような課題であること。
- (5) 地球規模のデータセットの収集、新たな研究課題の設定、さまざまな分野間の方法論の交流によって、社会科学の内容と方法論を進展させる目的を持つこと。